

## 5. スリランカの青少年の健康リスク行動に関する調査：青年期の痩身理想と身体不満の関係に自己概念が及ぼす影響

大森 美香（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）

本プロジェクトは、2009年度から2010年度にかけて、スリランカの青少年を対象に行った健康リスク行動に関する調査を実施した。今年度は、収集したデータより、スリランカの青少年の痩身理想や身体不満足と自己概念の関連について分析した。

我が国においても若年女性の極端なダイエットによる健康障害が指摘されており、ダイエット行動の心理社会的要因の解明が求められている。女性のダイエットを促進する要因に、社会的痩身理想の内在化がある。痩身理想とは、「やせた体型」が望ましいという体型に関する社会的な価値観のことであり、このような痩身理想の取り入れが（痩身理想の内在化）、身体不満を主要因とする極端なダイエットや摂食障害など心理・行動的な問題に結びつくことが、多くの研究者によって指摘されている。

社会的な痩身理想は、欧米に独特のものと考えられていたが、近年の先行研究からアジア諸国でも認められる傾向であることが明らかになっている。2009年に内戦が終結したスリランカにおいては、これまで青年期の心理的問題に関する研究が少ない。一方、この数年間で摂食障害の事例の増加が報告されている。スリランカの青少年の痩身理想や身体不満と食行動の問題との関連についての調査は僅少であり、その実証が求められている。本研究は、スリランカの青少年の身体不満や食行動の問題の実態を明らかにし、心理的関連要因の影響を解明することを目的とした。

### 方 法

#### 調査対象者および手続き

調査対象者はスリランカの中心的な都市であるコロンボとキャンディに位置するセカンダリースクール(高校)の12歳から19歳の学生2009名(男子1104名、女子905名)であった。

#### 調査内容

**痩身理想の内在化** Heinberg, Thompson, & Stormer (1995)により開発された Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire (SATAQ)をシンハラ語に邦

訳したものを用いた。

**身体不満** 身体に対する不満は Garner (1983) の Eating Disorder Inventory (EDI) の下位尺度 Body Dissatisfaction (BD) をシンハラ語に翻訳し測定した。

**学業達成感** Harter (1988) の Self-perception Scale for Adolescents の下位尺度の Scholastic competence をシンハラ語に翻訳したものを用いた。

## 結 果

瘦身理想の内面化、身体不満、学業達成感の平均得点および男女別の平均値を Table 1 に、変数間の相関係数を算出した (Table 2) 。 瘦身理想の取り入れと身体不満の関係に及ぼす学業達成感の影響を検討するために身体不満を目的変数として、5 ステップからなる階層的重回帰分析をおこなった (Table 3)。

Table 1 瘦身理想の内面化、身体不満、学業達成感の平均得点

	$\alpha$	男 女	女 子	男 子	t 値
SATAQ 内面化	.74	2.14(0.76)	2.00(0.74)	2.23(0.76)	-6.57***
SATAQ 気づき	.70	2.88(0.82)	2.79(0.84)	2.96(0.79)	-4.47***
身体不満	.61	2.75(0.77)	2.77(0.76)	2.72(0.77)	1.35
学業達成感	.61	3.11(0.53)	3.18(0.52)	3.06(0.54)	5.26***

\*\*\* $p < .001$

Table 2 変数間の相関係数

	SATAQ 内面化	SATAQ 気づき	身体不満	学業達成感
SATAQ 内面化	—	.52 ***	.10 **	-.12 ***
SATAQ 気づき	.47 ***	—	.01	-.04
身体不満	.03	.01	—	-.09 **
学業達成感	-.07 *	.03	-.20 ***	—

\*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

上段 ; 女子、下段 ; 男子

Table 3 身体不満を目的変数とした階層的重回帰分析の結果

	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step5
性別	-.05*	-.06*	-.07**	-.07**	-.08**
瘦身理想の内面化		.06*	.05	.10**	.09**
学業達成感			-.15***	-.07	-.06
瘦身理想の取り入れ×学業達成感				-.01	.08*
瘦身理想取り入れ×性				-.07	-.07
学業達成感×性				-.10**	-.10**
瘦身理想の取り入れ×学業達成感×性					-.12**
Adjusted $R^2$	.002*	.005**	.025***	.030***	.035***
$\Delta R^2$	.003	.004	.021	.006	.006
F値の変化量	4.395*	6.366*	36.452***	3.842**	9.936**

\*\*\* $p < .001$ , \*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

### 結果のまとめ

スリランカの青少年において、瘦身理想の内面化、身体不満、学業達成感について、欧米やアジア工業国の先行研究と異なる知見が得られた。男女差については、男子のほうが女子よりも瘦身理想や身体不満の取り入れの度合いが高いことが明らかになった。これらの変数間の関連においては、女子において学業達成感が瘦身理想と身体不満と負の相関がみられる一方、男子では同様の関連が得られなかった。

成功感としての学業達成感が低いほど、瘦身理想の取り入れの程度が身体不満に強い影響を与えると考えたが、女子の結果は学業達成感の程度が高い個人ほど瘦身理想の取り入れが身体不満に強く影響するというものであった。一方、男子の身体不満は、瘦身理想の取り入れの程度ではなく、むしろ学業達成感と関連することが明らかになった。

### 引用文献

Garner, D. M. (1983). Development and validation of a multidimensional eating disorder inventory for anorexia nervosa and bulimia. *International Journal of Eating Disorders*, 2, 216-233

Harter, S. (1988). *Manual for the self-perception profile for adolescents*. Denver: University of Denver.

Heinberg, L. J., Thompson, J.L., & Stormer, S. (1995). Development and validation of the sociocultural attitudes towards appearance questionnaire. *International Journal of Eating Disorders*, 17, 81-89.